

リハ専門相談 事例紹介シリーズ③「車椅子」

「楽に座ること」それは、生活を豊かにすること

「楽に座ること」の大切さ

健康な人の1日の生活を振り返ってみると、座って過ごす時間が意外に多いことに気付くと思います。健康な方は辛くなれば無意識で姿勢を変えています。自分では姿勢を変えられず辛い思いをされている車椅子利用者は多いのではないのでしょうか。姿勢の崩れは、息苦しさや食欲低下、痛みや疲れやすさの原因となり、社会的な参加や活動の妨げになります。

寝たきりから、ライフ活動へ



(元気になったAさん)

新しく車椅子を作るために助言が欲しいという行政からの依頼でSWとPTが自宅に訪問しました。

20代のアトーゼ型の脳性麻痺のAさんは肺炎となり6か月余りの入院生活の間に、すっかり体力が衰えてしまいました。気管切開や胃瘻、点滴が必要な状態で往診医、訪問看護ステーションのサポート体制を整え、自宅に退院となりました。退院3か月後には口からも食べられるまでに回復したのですが、今まで乗っていた簡易電動車椅子や座位保持椅子に座ることができず、寝て過ごしていました。身体評価を行うと体が横に倒れてしまうこと、お尻や背中が痛むことなどの問題はありましたが、元の車椅子にまた座れそうなパワーを本人から感じました。そこで、自費でチルトリクライニング車椅子

を借りて、楽に座って生活することで体力を回復する計画を立てました。PTが座りやすいように車椅子の調整を行い、退院4か月半後には元の車椅子にも乗れるようになり、8か月後には音楽ライブの演奏にも参加するまで元気になりました。

合わない車椅子の原因

現在、さまざまな高機能な車椅子が商品化されており、車椅子を使う方にとっては嬉しい状況になっていますが、楽に座れずに困っている人はいらっしゃいます。車椅子のサイズが体に合っていないという方は以前に比べ減っているようですが、楽に座るための調整が不十分であることがあります。バックサポートが姿勢に合わせての張り調整できることが知られていないとはその代表例です。円背の方が乗っているピーンと張った背もたれは実は調整できるかもしれません。

使う人に合った車椅子を選んだり調整することを、「車椅子シーティング」と言います。地域リハビリテーション支援センターではより良い「車椅子シーティング」ができる人が一人でも多くなるように研修も開催しております。



(バックサポート張り調整)

(平田 学)